

カレッジ通信

智辯学園奈良カレッジ小学部

平成30年度 2月号

平成31年2月15日 発行



暦の上では春を迎えましたが、まだまだ寒い日が続いています。世間ではインフルエンザが流行していますが、本校のインフルエンザ罹患患者数はまだ少ない状況です。明日の文化祭も欠席する児童のいないことを心から願っています。そして、このままみんな元気に学校生活を送ってくれたらこんな嬉しいことはありません。これからも「手洗い・うがい・咳エチケット（マスク）」はしっかり守ってもらいたいと思います。ご家庭でのご指導もよろしくお願ひします。

さて、2月に入ってから児童たちは文化祭に向けての練習や準備に余念がありません。今週は、リハーサルや最後の仕上げということもあり、教員も一緒に学校は熱気に満ちあふれています。例年のことながら児童たちのやる気満々の姿は頼もしい限りです。文化祭当日は、保護者の皆様に、児童たちの、少し緊張しながらも晴れ晴れとした姿を見ていただけると嬉しいです。彼らのこの1年間の学習の成果にどうぞご期待ください。

2～3月の学校行事

月	日	曜	行 事	月	日	曜	行 事
2月	15	金	地域別説明会（王寺）	3月	1	金	旅 4年到達度テスト・5年実力テスト
	16	土	感謝祭・文化祭		2	土	行 算数検定（1～5年希望者）
	17	日			3	日	かしば産業展
	18	月			4	月	6年生2/24の振替休日
	19	火			5	火	修学旅行解団式
	20	水			6	水	
	21	木	中学部進学予定者手続き		7	木	
	22	金			8	金	
3月	23	土	修学旅行結団式	9	土	週休日	
	24	日	6年	10	日		
	25	月	年生	11	月		
	26	火	修学	12	火	保護者会（1～3年）	
	27	水	習	13	水	保護者会（4～6年）	
	28	木	学	14	木		

高等部の卒業証書授与式が挙行されました

2月9日（土）に、智辯学園奈良カレッジ高等部の卒業証書授与式が挙行されました。小学部の4期生も小中高12年間の学校生活を終え、懐かしい学舎を巣立って行きました。卒業式後、小学部職員室にも挨拶に来てくれて、われわれ小学部の教員にとっても感慨深い一日となりました。まだ大学入試のただ中にある彼らにとっては、ゆっくり感傷に浸っている暇はないのかもしれませんが、これまで学校生活を共に過ごしてきた仲間や先生方と別れを惜しんでいました。卒業生の今後の健闘を心から祈っています。



各種コンクール入賞者紹介

第67回石上神宮奉納書初大会

準特選 6-2 清水美都（しみず みこと）さん

第20回NHK全国短歌俳句大会 ジュニアの部

入 選 6-2 西岡正隆（にしおか まさたか）くん
「夏ポタル光って照らす夜の町」

第66回大神神社書初めまつり

準特選 1-1 庄田華那（しょうだ かな）さん
1-2 和田諒子（わだ りょうこ）さん
2-2 柳澤優太（やなぎさわ ゆうた）くん
2-2 原田実子（はらだ みこ）さん
4-1 岸本莉奈（きしもと りな）さん
4-2 庄田遥紀（しょうだ はるき）くん
4-2 木村心奏（きむら このか）さん
5-1 藤木智也（ふじき ともや）くん
6-2 清水美都（しみず みこと）さん
優 秀 2-1 鈴木ともか（すずき ともか）さん
3-1 谷本晴陽（たにもと はるき）くん
3-1 黒瀬日奈子（くろせ ひなこ）さん
3-2 岡野高顕（おかの たかあき）くん
3-2 橋本芽生（はしもと めい）さん
4-1 大槻みのり（おおつきみのり）さん
4-1 鍛冶本千雛（かじもと ちひな）さん
4-2 宮倉崇行（みやくら たかゆき）くん
5-1 石田 渉（いしだ わたる）くん
5-2 綿谷 紗（わたや すず）さん

第12回「私とみんてつ」小学生新聞コンクール

努力賞 4-2 山本佳奈（やまもと かな）さん

かしば産業展に参加します

この度、香芝市商工会からお誘いがあり、本校も「第5回 かしば産業展」に協力することになりました。今回の産業展のテーマは「なりたい職業を体験しよう」で、本校は「学校の先生」を担当します。当日は、小学校・中学校の教員の仕事に関わる体験をしてもらおうと考えています。興味のある方はぜひご来訪ください。詳細は以下の通りです。

開催日時 2019年3月3日（日） 10:00～15:00
会 場 ふたかみ文化センター（近鉄下田駅、JR香芝駅より徒歩10分）
※ 入場無料ですが一部の職業体験は有料です。

児童の作品紹介

今回は作品を2点紹介します。

まずは、「第62回全国学芸サイエンスコンクール読書感想文部門」で旺文社赤尾好夫記念賞（銅賞）を受賞した5年1組中村大和（なかむら やまと）くんの「あと少し、もう少し」です。

「あと少し、もう少し」

5年1組 中村 大和

この本のタイトルは、「あと少し、もう少し」です。この本を読んで、このタイトルに続く言葉を知ったぼくは、感動して泣いてしまいました。

この本は、駅伝を走る少年六人の話なので、タイトルの「あと少し、もう少し」に続く言葉は、「もう少しでゴール」と思っていました。しかし、全然違いました。

ぼくが、この本を読みたくなった理由は、自分が入っている学校のバスケットボールクラブが最高に楽しいからと、習っているスイミングスクールをもうやめてしまうかどうか悩んでいたからです。

駅伝クラブの中学生男子六人が、県大会の出場資格を得るために、助け合いながらもぶつかり合って、悩み抜く毎日が描かれています。リーダー的存在なのに、病気で良いタイムが出ず不調になってしまう榊井君、いつも人の顔をうかがってばかりの設楽君、タバコを吸っている金髪の大田君、人と壁をつくり、人を寄せ付けなくなってしまった渡部君、人に頼みごとをされると絶対に断ることができないジロー、学年がみんなより下の、榊井君を尊敬している俊介。実はみんな、全然性格が違うのに、六人とも自分よりもまず相手のことを考えてしまうところが何ともやさしいなと思いました。だからこそみんな、相手の本心が分からずにいらだってしまうのです。でも、県大会に出場したいという同じ目標を持つことで、気持ちが一つになっていくところが感動的でした。

人間同士って、心の奥底にある思いが同じだと、ぶつかり合っても心が一つになれてしまうことをぼくは知りました。この本を読んでいるぼくは、まるでメンバーの一人になったような気がして、絶対に県大会に出場したいと願っていました。ぼくまで一緒に駅伝を走っている気持ちになっているのです。

ぼくが一番感動したシーンは、誰もが尊敬するリーダー的存在の榊井君がアンカーを断ったところです。彼がアンカーに指名したのは、タイムも体調も良く、一番元気である俊介です。しかも俊介は、学年が自分より下です。みんなは驚いて、顧問の先生も、榊井君がアンカーにふさわしいと言うのだけれど、榊井君がプライドを捨て、大会に出場するには何が一番大切なのかを考えたシーンです。なぜなら、アンカーというのは、駅伝経験が一番長く誰からもふさわしいと言われていて尊敬されている人がするような空気感があるのに、そういうお決まりのアンカー決め体制を自分で変えてしまったからです。チームみんなの「一番の願い」は何なのかを考え抜いた強い気持ちがすごいなと思いました。

ぼくが、学校のバスケットボールクラブが楽しくてスイミングがあまり楽しくない理由がわかったような気がします。バスケットボールもこの駅伝と同じように仲間がいます。けれど、スイミングは、姉とは一緒だけど、仲の良い友達はいません。やっぱり仲間がいることは幸せです。誰だって自分だけのことならそんなにがんばろうと思わないけれど、バトンを早く渡したい、自分のせいで時間が取られる訳にはいかない、これだけの苦しさを自分自身がわかっているからこそ、周りのみんなの苦しい気持ちが分かり、励まし励まされてがんばることができるのだなと思います。

この本のタイトルに「あと少し、もう少し」に続く言葉は、「みんなと走りたい」だったのです。駅伝クラブに入ることを嫌がったり、メンバーとけんかしたりしていたのに、走りながら全員が、少しでも一緒にメンバーと走りたい気持ちになっていたのです。感動的です。ぼくもバスケットボールクラブを、「あと少し、もう少し」みんなと楽しく続けたいという気持ちでいっぱいです。

続いて、「第64回青少年読書感想文奈良県コンクール」で毎日新聞社賞を受賞した4年2組香月蒼太（かづき そうた）くんの「自由と戦争」です。

「自由と戦争」

4年2組 香月 蒼太

今の世界は、戦争とはほど遠く、くらしやすくなってきていますが、昔は自由になりたくてもなることを許されない世界でした。ぼくにその世界で生きることの苦しさや、大切なことを教えてくれたのが、「最後のオオカミ」です。

主人公のロビー・マクロードも、一緒に人生を歩んだ最後のオオカミも、戦争や狩人（かりゅうど）によって親を殺され、孤独の身となりました。けれども、出会って時間を過ごすうちに親友となり孤独を忘れることができました。ぼくには、オオカミと心を通わせるなんてとても考えられません。動物園で何度かオオカミを見たことがあります。鋭い目と低いなり声でこわくて足がすくんだのを覚えています。たとえ、同時に親を亡くしたという状態になってもあのオオカミと親友になれないと思います。だから、どうしてそうなれたのかなと色々考えました。ぼくが小さい頃、ひいおじいちゃんが戦争に行った時の話を聞いた時、ひいおじいちゃんは何もくわしく話してくれなかった事を覚えています。それから、ぼくも忘れて気にもとめていませんでしたが、この本を読んで、今思うのは、思い出したくもない事だったのかなということです。今となっては、ぼくにはひいおじいちゃんがどれだけつらくて悲しいけいけんをしたのかも分からないし、同じ時代で生きてみないと本当の事や、その時代を生きた人の気持ちなんて分かるはずもないと思います。ただ一つ言えることは、今のぼくにはありえないことばかり起こっていたということです。

この物語では、二人と一緒に生活していく中で、見つかったら殺されるとか色んな試練がおとずれますが、主人公は、チャーリーがオオカミだと分からないように毛を刈ってみたり、自分たちがいる場所が危険だと思つと、海の向こうへ渡ってみたり、様々な計画を立てて、行動していました。ぼくは、主人公に感心しました。ぼくは、大変な状況になってもただあせって言葉も見つからず、おろおろしてしまうと思います。それを、先の事を考え、しっかり計画を練り、行動にうつすなんて、本当にすごいなと思います。生きていくためにそうしないといけなかったのだと思います。

ぼくは、この平和な世界の中で生きていくためにどうしたらいいのかなどを考える事はありません。しかし、平和な世界だからこそ、戦争という世界で生きた人たちの事を知らなくてはいけないと思いました。この物語の中で、主人公と最後のオオカミはお互いのために生きていた相手をそんけいし、せいっぱいの気持ちをもって支え合っていました。ぼくも、今できる事は何かを考え、今できる事は行動し、この世界で生きていきたいと思います。そして、二人のような関係が築けたら幸せだろうなと思いました。

学校説明会を開催します

「児童募集」に関わって、下記の通り学校説明会を実施いたします。保護者の皆様のお力添えを賜り、受験適齢期のお子様をお持ちの保護者の皆様にご案内いただければ幸いです。ご協力の程、よろしく願い申し上げます。

記

「学校説明会 in OSAKA」

平成31年3月16日（土） 10:00～ シェラトン都ホテル大阪

※詳細は本校HPをご覧ください。 <https://www.chiben.ac.jp/naracollege-el/>